

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334		
自己評価作成日	平成24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは郊外にある為、自然に囲まれており、畑で野菜を作ったりホームで飼っている動物とのふれ合いやまた、ホームの中は広々としており入居者それぞれの生活ペースに合わせ、日課にとられずその方にあった暮らしが出来るよう支援している。各居室にはトイレ・洗面所が完備されておりプライバシーへの配慮にも力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201289-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年5月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム茨戸ふぁみりあ3・4号棟」は、札幌市郊外の自然豊かな静かな場所に位置している。広大な敷地内にある畑では、利用者も好きな花や野菜などを植えて生育を楽しんでいる。玄関先や中庭では犬や鶏が飼育されており、近隣の子供達が遊びに来る事も多く、利用者との交流の場になっている。広々とした建物内は明るく開放感があり、トイレと洗面台が各居室に完備されており、利用者のプライバシーに配慮した造りになっている。各種マニュアルの整備、法人研修、各種委員会の設置など、法人によるバックアップ体制も充実している。また、家族アンケートを実施して家族の意見や意向の把握に努めるなど、常に職員の資質向上と、より良い運営を目指して取り組んでいる。自己評価や前回の課題にも、全職員で積極的に取り組みを行っている。現在も、法人内グループホーム合同の夏祭りや日常生活において近隣住民と交流を行っているが、今年度からの町内会加入により、更なる地域交流の深まりが期待されるグループホームである。各職員は、利用者の思いに沿った個別支援を行いながら、趣味などの残存能力を活かした活動を取り入れ、一人ひとりが笑顔で穏やかな日々を過ごせるように温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(3号棟アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念・ホーム目標があり、入居者や来訪者にも見えるように玄関やユニット内に掲示している。各々理解のうえ達成に向けて取り組んでいる。ユニットの目標も作り実践している。	施設理念の中に、「地域的緩和」という地域密着型サービスの意義を踏まえた項目を掲げ、各職員はカードを携帯している。ユニット目標とホーム目標は、会議やカンファレンスで振り返りを行っているが、施設理念を共有する機会は少なくなっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた施設理念を、職員間で再確認して共有し、更に日々のケアに活かされるように期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中庭を開放し、近所の親子連れや保育園の子供達とのふれあいもある。また、地域の小学生がヨサコイを見せに来たりと訪問の機会がある。夏祭りの際には、地域の方々も案内している。	学習発表会の一環として小学生が来訪し、楽器演奏や歌などを披露してくれる機会も多く、昨年度は小学校からの依頼で、豆まきを一緒に楽しんでいる。専門学校の生徒が、実習を通してボランティアに訪れる機会もある。今年度から町内会に加入し、地域との交流を深めていく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度の運営推進会議において、認知症についての勉強会を実施し理解を深めて頂ける様に努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議が定例化し開催されており、有意義なものになっていると感じる。また、今年度より利用者家族全員に参加を呼びかける事とした。	運営推進会議は、茨戸地区の同法人3事業所合同で2か月毎に開催している。災害対策や外部評価結果報告の他、認知症に関する情報提供、町内会の状況報告を受けている。今年度より、全家族に開催案内と議事録を送付して家族意見を収集し、参加を推進していく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人母体が大きい為、とりたてて相談する事もなく経過しているが、家族へのオムツサービス使用の紹介の折に市への相談をしたのに留まっている。他は、運営推進会議において、地域包括センターから意見を頂くのにとどまっている。	統括施設長が役所と連絡を密に取り、わからない事があればその都度訪問したり、電話で確認している。利用者に直接関する事は、管理者が役所に電話をして相談する事もある。管理者会議などで情報を得て、ケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ユニット会議等で職員に周知させている。施錠も夜間の防犯目的以外には行っていない。言葉の拘束についても、職員同士が互いに注意を払い、日々ケアを実施している。	法人でマニュアルを整備して、研修を実施している。法人研修後にユニット会議で報告研修を行い、職員間で更に理解を深めている。カンファレンスなどで事例を基に再確認したり、気になる言葉かけがあれば、その都度管理者が注意を促している。拘束に繋がらないような言葉に変えて、声かけを行うように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や伝達講習によって、理解し防止の徹底に取り組んでいる。更衣時や入浴時においての全身チェックも行っている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会がなかったが、現在成年後見人制度を利用している家族がおり、関係機関との連携を図った。活用が出来ていると感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行っており、その他の不安にも耳を傾けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情処理担当者の配置により、入居者や家族が意見を述べ易く、都度対応できている。また、いつでも意見を述べ易いような雰囲気作りにも配慮している。また、ご家族へのアンケートも実施し、反映できるように努めている。	家族の来訪時に利用者の様子を伝え、会話の中から意見を引き出せるように工夫している。前年度から家族アンケートを実施し、意見や要望を運営やケアに活かしている。家族からの意見は、連絡ノートや受診記録に個別に記入して職員間で共有し、統一した対応ができるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との個別面談や日々の業務の中で、意見を述べ易い環境が整っていると感じる。但し、法人が大きく意見が反映されているかどうかは理解しにくい。	統括施設長は、各職員と年1回個別面談を行っている。職員の提案を受けて、夜間の排泄時の安全のため、センサーによる足元照明設備を充実させたり、環境や行事、広報などの担当を決めて、各職員が中心になって取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者個人面談もあり、意見を述べ易い。法人内研修も定期的実施されており、職員個々人のスキルアップに努めてくれていると判断する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が定期的に計画・実施されている。また、外部研修への参加も確保して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等の研修が開催されており、同業者と交流する機会が確保されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用時に、本人・家族と面談や見学を行い不安な事や希望を確認している。入居後も信頼関係を築き、不安を軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時において家族が不安に思っている事や困っている事に耳を傾けている。入居後も関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、その時に必要なサービスを検討し対応するが、殆どの場合で入居を前提としたものである。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個人の生活歴や性格を尊重し安心感のある関係を築くよう努め、協力しあい生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を伝えながら、家族の支援も重要である事を理解してもらいながら、必要に応じて相談し協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者ではあるが、手紙、電話のやりとりがあり、来訪は何時でも可能で、入居者の昔からの友人の来訪もあった。来訪者が帰る際には、再度来訪しやすいような声掛けを行い、時には見送りも行っている。	家族支援の下、自宅を訪問したり、お墓参り、馴染みの飲食店などに出かけている。携帯電話を使用して、自由に知人と連絡を取っている利用者もいる。利用者の希望に応じて、買い物などの個別支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間を大切にしており、職員が仲介していく中で、軽度入居者が重度入居者を理解し気遣う場面も見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関に様子を伺いに行ったり、情報をもったりしている。また、時折来訪してくれる家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の言葉やサインから思いを汲み取るよう努めている。また、職員間で情報交換を行い、常に本人本位のケアが出来るように検討をしている。	簡単な問いかけや仕草などから希望や意向を把握して連絡ノートに記録し、口頭でも伝えて職員間で内容を共有している。新しく得られた情報は日々記録し、年1回フェイスシートの更新をして情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報収集から、これまでの暮らしの把握に努め、職員間でも情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノートを活用し、日々のケアにつなげるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前年度より、モニタリングの様式を作成し定期的なカンファレンスにおいて、計画作成担当者と居室担当者・他職員によってモニタリングと同時に検討を行い、サービス計画者を作成している。	新規利用者の介護計画は、1か月で見直しを行っている。定期的な見直しは、担当職員を中心に3か月毎にモニタリング、カンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。本人や家族の意向は日々の会話から把握して、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の様式変更に伴い、サービス計画が反映されていると感じる。また、昨年度の目標であった個人ファイルの一元化も行い、入居者個々の情報がより共有しやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲での努力はしているが、職員配置の点や施設管理上の問題により、柔軟さにはややかけていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているものの具体的なかつ定期的な活用には至っていない。夏祭りには、ボランティアを依頼し来訪してくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の訪問診療で対応し、他科受診が必要な場合も対応できている。かかりつけ医との関係も構築されている。	かかりつけ医の継続は可能であるが、家族の希望で殆どの利用者は利用開始時に協力医療機関に変更している。職員が受診支援を行っているが、病状により家族も同行して、医療方針を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護で、日々の生活や心身の状況を報告、相談し、助言を頂いている。また、電話での相談も受けてくれており速やかな受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を伺ったり、看護師や相談員、家族との情報交換も行えており、関係者との関係作りはできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化についての説明はさせて頂いており、体調変化の際には家族、主治医、管理者との面談を行い今後の方針を検討している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、利用者の状態変化に応じて、家族、医師、事業所で方針を検討していく旨を利用開始時に説明している。経口摂取が出来なくなったり、常時医療行為が必要になった時は、事業所での対応が難しくなる事を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、職員にはシュミレーションを行ってもらっている。また、昨年度は救急救命講習に参加し、出席が出来なかった職員に対しては伝達講習を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練に関しては、昼夜を想定し定期的に実施した。近隣には同一法人の施設があり、協力体制も整っている。	消防署の協力を得たり、自主訓練で昼夜の火災を想定した避難訓練を年間4回実施している。地域消防団や住民も参加している。地震マニュアルを作成し、危険個所の確認を行ったが、対策は今後の課題となっている。災害備蓄品の整備も、現在継続中である。	地震時の安全対策を実施し、最低限必要な災害備蓄品について検討し、備蓄品が整備されるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人一人を尊重した声掛けを意識しケアを実践している。また、個人のプライバシーを損ねないように耳元での声掛けや訪室での声掛けを行うなど、常に配慮している。	名前の呼び方は本人に確認し、基本的には苗字、又は名前に「さん」付けて呼んでいる。上からの目線や利用者の意志に添わない言葉かけには注意している。個人情報適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で、自己決定できるような関わりをしていくよう心掛けている。理解が困難な場合には、ジェスチャーや表情などで汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるものの、その人らしいペースを守り過ぎて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の入居者ではあるが、衣類の決定やマニキュアやお化粧などを楽しめるよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者委託メニューの為、入居者が満足できない部分もあるが、行事食や誕生食、畑の収穫物を食べて頂く等し、食事の時間には職員と一緒に食事をし、後片付けも一緒に行う等、食を楽しめるよう支援している。	年に2回実施している利用者アンケートの結果を食材委託業者に渡し、献立に反映させている。献立には年間行事の特別メニューを入れてもらい、誕生日には外食や出前なども取り入れている。中庭で食事をしたり、畑からの収穫物を食卓に添えるなど、気分を変えて食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者により、カロリー計算された食事を提供している。個人記録に摂取量を記録し、食事量や水分量共に容易に確認ができる。それを元に、栄養や水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時には、声掛けで促す方、全面的に支援が必要な方を問わず、口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人のパターンを把握し、誘導を行う事でトイレでの排泄に努めている。出来る限り紙おむつを使用しないケアを実践している。	排泄チェックが必要な人には、個人記録に状態を記録し、時間の間隔を見て誘導している。トイレは居室にあるのでプライバシーは守られており、利用者に合わせて声かけで羞恥心に配慮している。退院後、紙オムツを使用していた人も徐々に外れて、日中はトイレでの排泄に改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の申し送りによって、排便状況を職員で共有している。排便困難な方には、乳製品の摂取や腹部マッサージ、時には坐剤の使用によって便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施しており、一部の入居者は希望日に入浴できている。職員複数での支援が必要な入居者もいる為、曜日を設定しているのが現状である。但し、其々の体調や発汗時などは、曜日や時間を変更しその時に見合った支援を実施している。	入浴は毎日可能で、午前・午後の時間帯に順番の希望を聞き、最低でも週2回の入浴を支援している。車椅子介助浴は、複数介助で行っている。浴室は広く清潔で、入浴剤を使用するなどしてゆったりと入浴している。入浴日以外の足浴や夏季のシャワー浴にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は生活習慣を把握し、情報を共有する事で生活リズムを整え安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも見られるように内服薬情報をファイルにして保管している。内服薬変更時は、連絡ノート記載や申し送り等で留意すべき点を把握し観察を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴を参考にし、余暇活動や手伝いを行ってもらうように声掛けを実施している。其々の楽しみや役割、気分転換になっていると考える。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調不良と重複したり、入居者レベルの違いから、全員一緒にでの外出の機会は少なかった。家族の協力のもとでの外出の機会はあった。外出が困難な入居者には、ウッドデッキの散歩や外気浴をする等の支援は行った。	暖かい時期には、出来るだけ外気に触れるように努めている。出たくない利用者も楽しめるように、ウッドデッキや中庭でお茶をとっている。利用者の希望を聞き、毎月1回は外食、また公園散歩や花見の機会には弁当持参で楽しんでいる。買物などの個別支援も行われており、外出の機会は多い。冬場も外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者は、お金を所持し外出の際には、自分の好きな物を購入できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にポストを設置しいつでも手紙を出せるようになっている。また、携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けになり、窓も大きく開放感がある為、日差しが強すぎたり、暑くなりすぎないよう、常に気を配っている。また、廊下やリビングには日常がわかるような写真や季節に合わせた装飾も行っている。	共用空間は全体的に広く明るい。廊下にソファが置いてあり、ゆったり過ごせる広さがある。居間は吹き抜けで天窓や大きなテラス窓から陽光が入り、四季の景色を見渡せる快適な環境である。各ユニット毎に利用者と一緒に作成した季節の作品や趣味の作品が飾られており、生活感と温かな環境づくりが為されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファやテーブルを置き、そこでいつでも寛げるようになっている。其々が思い思いの場所で過ごす事ができている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人が使いなれた椅子やタンスなどの持ち込みも可能であり、仏壇を持ち込んでいる方もいる。居室内も居心地良く過ごせるよう自由に配置できる。	トイレ・洗面所付の10畳程の広い居室には、ベッドと小タンスが備え付けてある。自宅からは馴染みの家具類や大きめのテレビ、また仏壇などが持ち込まれている。出窓には花など、それぞれに好みの物を飾り、その人らしい居室になっている。壁に家族の写真や趣味の作品が貼っており、自室でも快適に過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間にゆとりがあり、車椅子での移動も容易である。また、手摺も随所に設置されており、トイレについても個々人の居室にある。それらを活用し、出来る事への支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334		
自己評価作成日	平成24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「3号棟ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201289-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年5月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(4号棟アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の理念があり、施設内に掲示している。それぞれが常に携帯することで、いつでも目に留まり、理念を共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺には住宅は少ないが、近隣小学校の定期的な訪問があったり、近所の子供たちが庭に遊びにきたり、入居者との交流が出来る。又、今年度より町内会へ加入し、今後の地域交流に期待したい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、施設の特性や日常の様子を報告する事で、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、前年度は防災についての情報提供や意見交換がされ、今後のサービス向上に繋がるよう努めている。今年度よりご家族全員への参加を呼びかけている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者連絡会を通し、情報提供があったり運営推進会議の際に地域包括支援センターからの意見を頂いている程度に留まっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ユニット会議等で日々のケアを振り返り身体拘束を行わないケアを実践している。又、施錠に関しては、防犯面を考慮し夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学ぶ機会があり、日常のケアを通して、身体チェックを行い異常がないか注意を払っている。言葉による虐待や抑制についても、常に意識してケアにあたっている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度は有期実習型職業訓練を実施し、学ぶ機会を設けている。成年後見人については、現在該当者はいないが、事業所としては必要に応じて支援する体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね管理者・施設長が対応しており、契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点に関しても耳を傾け理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理対応者・第三者機関を設置しているが、直接管理者や職員へ話せる環境作りが出来ており、意見箱は殆ど利用されていないのが現状。又、ご家族へのアンケートも行っており運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度の個人面談を行ったり、ユニット会議を通して、意見交換や提案をする機会を設けており、必要に応じて都度改善し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働時間などは、法人内の規定があり、やりがいや向上心を持って働けるような整備がされているかは、職員個々の捉え方による。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修が積極的に行なわれている。外部研修に関しては、職員の力量などに合わせて参加している。前年度は有期実習型職業訓練を導入し働きながらトレーニングする事に力を入れ積極的に取り組んでいた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会主催の職員研修や内外研修を通して同業者との交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人にお会いして情報収集している。又、困っている事や不安な事への聞き取りを行い安心して入居できるよう努めている。入居初期にはカンファレンスを行い、ご本人の状態を把握する事で、安心して暮らせる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前にご家族・ご本人との面談を通して、ご家族の不安や要望などを聞き取り、入居後も面会時などにお互いに情報交換を行なうなど関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の段階で何を支援すれば良いのか、一番合った対応を見極めている。又、入居に関する問い合わせの際も本人、家族の意向などを踏まえ上で適切なサービスの見極めと支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での喜怒哀楽を共有し互いに暮らしを共にすることで、信頼関係が築けており、入居者を介護される一方の立場とは考えていない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、家族と過ごす時間を大切に出来るよう居室で過ごしていただいたり、ご家族と一緒に外出する機会を設けて頂いたり、本人を中心とし、職員・ご家族共に一緒に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族との関わりが多いが、手紙や電話の希望時には支援している。又、一部の入居者ではあるが知人の面会があったりと、なじみの方との関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でも馴染みの関係が出来ており、入居者同士の関係を把握する事で関わり合えるよう支援している。又、意思疎通が困難な入居者に対しても、職員が仲介し孤立しないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にすぐに関係を断ち切る事はなく、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、一人ひとりどのように生活したいか、希望を聞き本人の意向の把握に努めている。又、思いを伝えられない方に関しては、表情・言動から思いをくみ取り、把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、これまでの生活歴を本人や家族から聞き取り、入居後もご本人との会話の中でどんな暮らしをしてきたかなどの情報収集をし職員で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録や申し送りを通して職員間での情報の共有に努め、変化があった場合でもそれに合わせたケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるモニタリング後、カンファレンス時に職員全員でモニタリング結果について再度話し合いを行っている。ご家族や本人からの意見や要望も聞き取り介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な気づきも共有できるよう、個人記録のほかに「気づきノート」を作り、情報を共有している。又、申し送りノートを通して受診結果や状態の変化について把握し易いよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲でそれぞれのニーズに合わせて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治体の活動は把握しており、その他、ボランティア等も受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を主なかかりつけ医とし、2週に一回の訪問診療と週に一回の訪問看護の体制をとり必要性や希望に応じて他科受診も出来るよう支援している。又、協力病院は在宅療養支援病院として24時間往診・訪問看護体制を取っており、適時に必要な医療を受けられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の中で、日常の状態などを報告し共有している。又、24時間いつでも連絡可能であり、医師との連携も行い必要時には受診等の調整も行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書その他、口頭での情報伝達を行っている。入院中の状態はソーシャルワーカーや看護師、ご家族などと連絡を取り退院に向けての話し合いも行なわれており病院との関係作りが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化への対応や方針を説明し同意を得ている。又、疾患に合わせ都度病院や家族と話し合いを行い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に迅速に対応出来るよう分かりやすい所にマニュアルを完備し、定期的にシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、定期的に昼夜それぞれを想定して訓練を行っているが、水害や地震に対しては不十分である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理には徹底しており、一人ひとりの人格を尊重し、やさしく丁寧な言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の意思表示や自己決定できるような支援を心がけている。又、自己決定できない方に関しては、本人の表情やサインから読み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるも、時間を気にせずに一人ひとりの生活リズムで過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、お化粧をしたり、アクセサリーをつけたりと個々におしゃれを楽しめるよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、後片付けなど、可能な限り入居者と職員が一緒に行っている。メニューは業者へ依頼しており、入居者の好みも反映されているかは不明。食事時間は音楽を聴きながらゆったりとした雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に一人ひとりの一日の摂取量をチェックしている。カロリー・塩分も計算されており栄養バランスも取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要量に応じて毎食後それぞれに行っているが、自立されている方に関しては、声掛けや確認に留まっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握したり、食事・水分摂取量を把握し、考慮したうえで失敗せずに排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因等については、職員それぞれ理解している。朝食前に乳製品を提供したりと、できる限りの自然排便を期待しているが、必要に応じて看護師・医師へ報告し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日の固定はせず、概ね3日に1回のペースで入浴できるよう支援している。又、入浴日以外にも必要に応じて足浴も行っている。リフト浴も設置しており、身体状況に合った入浴方法を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調の変化に注意し必要に応じて休息の声掛けなど行っている。夜間安眠できるよう、日中の活動量を多く取れるよう声掛けしている。又、寝具等についてもそれぞれ安心出来るなじみの物を使用できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情をファイルし、作用・副作用がいつでも確認できるようにしている。又、内服に関しては誤薬がないように、独自のチェック表を作成し何度も確認し注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの希望する役割や楽しみなどを通して楽しく充実した生活を送れるよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節には庭で昼食を摂ったり、ティータイムを楽しんだりしている。月に一回、外食などで必ず外に出る機会を設けている。又、ご家族にも外出支援の協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方で希望されている方は、所持しており、病院代の支払いや買い物の外出時など自身で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された際にはいつでもできるよう支援している。知人の方などからの電話が入る事もあり、取りついでいる。ホーム内にポストも設置しており、手紙など自由に出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備は常に心がけている。写真を掲示したり季節に合わせて装飾を変更している。玄関ホールの熱帯魚前にも椅子を配置し、そこでの熱帯魚観賞は入居者にとって楽しみや気分転換の一つとなっている様子で居心地よく過ごしていただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも、好きな時に好きな場所で過ごせるよう、ソファやテーブルなどを配置し思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた馴染みの家具や私物の持込みが可能であり、居室のレイアウトも使い易いように配置しており、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事やわかる事を見極め活かし、出来る範囲、わかる範囲で安全に行なえるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

作成日：平成 24年 6月 11日

市町村受理日：平成 24年 6月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災に関する訓練は定期的に行なわれているが、地震や水害に対する対策・訓練が行なわれていない事が現状。食料などの備蓄品も不十分である。	地震・水害時の訓練の機会を設ける。また、災害備蓄品の確認と整備を行なう。	災害備蓄品の確認・整備を行う。又、地震・水害時の避難訓練を実施する。	12ヶ月
2	1	ホーム目標やユニット毎の目標があり、会議などで振り返っているが、施設理念の振り返りの機会が無い。	施設理念の共有。	ユニット会議で施設理念について振り返り、共有する。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。